

日本共産党松江市委員会機関紙

# 新しい松江

発行 日本共産党東部地区委員会・松江市袖師3-6 電話24-2456

## 松江市議選一いよいよ本番へ

# 橘・吉儀・田中 市議会議員候補 必勝を

## 宣伝、訪問、集いなどフル稼働

いよいよ市議選本番(9日告示、16日投票)が近づき、3人の市議予定候補を先頭に、宣伝、訪問、集いなどに各後援会がフル稼働しています。

### 橘陣営―若いお母さんと子育て要望でミニ集会

橘祥朗議員は、「八束の明日を考える会」の皆さんと一緒に、大根島の入口と江島べたふみ坂の二か所で朝の通勤者への挨拶宣伝に立ち訴えています。



ます。(写真上)

「あなたの町は原発から何キロ?」「この町でもこんなことが出来ました」など、各地域でも地域ビラを配布し、元気に活動を広げています。

八束町では、「議席をなくして元の空白には出来ない、必ず議員を出そう」と、期待と支援の声も広がっています。

若いお母さんと橘議員とのミニ集会も開かれ、子育てなどの要望も寄せられました。

### 吉儀陣営―朝は手振りハンドマイク宣伝

吉儀敬子議員は、月・水・金曜日の朝、7時30分から

## 教育後援会が集い開催

### 橘、吉儀、田中氏らを囲んで…

3月26日、県民会館で、日本共産党教育後援会主催の



教育の集いが開催され、200名が参加しました。集いでは、幼児教育から高校教育までの現場の実態を交流し、橘よしあき、吉儀けいこ、田中はじめ市議予定候補が現場の声に耳を傾けました。(写真)

集会では、主催者挨拶の後、学力テストの過去問練習の実態や、一人一人の子どもの課題にこたえる教育と学力テストの矛盾が次々に語られました。

8時まで、揖屋駅前で手を振っています(写真左)。春休み前には、登校班の子ども達が、目の前を登校して行き、元気な声援が寄せられました。



また、障害を持つ幼児の通学支援の問題、大規模中学校の困難な状況の中で、教職員が頑張っている実態などが出されました。

3人の予定候補は、議会の様子を報告するとともに、現場の願いを市政に反映させるために頑張る決意を述べました。

集会の最後に、岩田剛東部地区委員長が、日本共産党市議団の議案提案権を確保しようとして訴え、教育の面でも市政を革新しようという決意を固める会となりました。

「いよいよ選挙本番に突入します。原発なくし、命・暮らしを守るため、公共料金の値上げにきつぱり反対をしっかりと訴えます。安倍暴走政治許さない思いを日本共産党へ」と訴えています。

原発ゼロの松江、市民の声が届く松江、市民に温かい松江にしようとの訴えに、多くの市民から手を振って激励が寄せられました。20日の昼食は炊き出しが行われ、春らしさいっぱいのおちらし寿司とすまし汁、野菜の和え物に予定候補を初め一同おなか一杯。青空の下、共産党の政策を元気に響かせました。

田中陣営―30カ所宣伝小集会や炊き出しも…

後援会は、4月2日のイオン前、吉良よし子街頭宣伝に向け、それぞれの持ち味を生かして奮闘中です。

安保関連法(戦争法)廃止を求めるしまね総がかり行動実行委員会は3月19日、JR松江駅前で緊急集会を開き、市民と野党の共闘で「安倍強権政治を終わらせよう」と約80人が集いました。(写真)



## しまね総がかり緊急集会

### 共謀罪、森友学園疑惑、空中給油機配備…

―トークでは、安保関連法の廃止を求める島根大学の会の三宅孝之氏が「集会や結社の自由、表現の自由までも弾圧したのが治安維持法。共謀罪はまさに現代の治安維持法」と訴えました。

空中給油機配備ストップ市民の会の浜田章作氏は、美保基地への空中給油機配備計画について「私たちが描く平和な空の未来像とは相容れない」と強調しました。

# 松江市政の課題は何か？

## 「しまね自治研」が講座

3月25日、しまね地域自治研究所(保母武彦理事)は、松江市政の課題は何かと題して、講座を開催。約30人が参加しました。(写真)



島根大学の園昌武教授は2015年に松江市政が行った市民意識調査から分析し、松江が住みよいまちという評価の一方、経済・雇用への不満が著しく強く、巨大リスクを抱える原発については調査がされていないこと、社会的弱者の実態が解明されていないことを指摘しました。そして、アメニティー創出のまちをめざすこと、原発依存から脱却し、エネルギー自立地域をめざすことを示しました。関耕平准教授は、松江市の行財政問題を掘り下げ、20

16年の中期財政計画では行革の名の下、扶助費や補助費等の削減を打ち出していることを問題視しました。

保母武彦理事は、美保基地への空中給油機の配備問題にふれ、島根原発を抱える松江は最も危険な地域の一つと指摘。中核市移行問題にふれ、国家の形を変える流れであり、住民自治、団体自治を守ることに松江市の最大課題だと指摘しました。

参加者からは市民の安全や暮らしにかかわる問題が指摘され、地方自治を担う職員の専門性の向上の課題が指摘されました。

# 市民とともに歩んで…



## 堰を切ったように出される思い…

吉儀 敬子

市議会議員選挙がいよいよ迫ってきました。市民の皆さんがどのような思いで投票されるのか、まとめてみました。

「夫を亡くし、子どもは都会で暮らしているの、一人暮らしになった。夫の介護が大変であった。自分の介護度が要支援1となった。介護予防施設に週1回通っているが、4月から今

まで通りの支援が受けられるのか心配。

小学生の子どもを持つ母親からは「子どもは、サッカーをしており、中学卒業まで医療費無料にして欲しい。運動でケガした時、出費が心配」との声。

「70歳過ぎてても、工事現場で働いている。森友学園の問題は、権力者は国民の暮らし向きのことなど全く

考えず、自分の身の保身しか考えていない。腹が立つ」など。

皆さん堰を切ったように自分の思いを話して下さいました。

これらの思い、安倍暴走政治を許さないとの思いを、日本共産党に託して下さい。今、国会では野党4党が一致して森友問題の追及に取り組んでいます。

市議選でも、日本共産党を伸ばしていただき、介護体制の充実、子どもの医療費中学卒業まで無料、原発動かさないという市民の願い実現の市政をめざしてがんばります。

# 探訪 市街(橋南)一山代新造院

## 一遺跡と文献が照合できる 全国的に貴重な来美廃寺

文と写真 吉川 晴雄 (18)



中学校や住宅団地が建ち並ぶ裏手の狭い道路沿いに、きれいに史跡整備された「来美廃寺」跡(写真左)があった。

案内板には、金堂をはさんで瀟洒な2つの三重塔が配置された絵図が描かれていた。今は、須弥壇(しゅみだん)と礎石が復元されているだけだが、荘厳な堂塔が建ち並ぶ当時の様子が偲ばれた。

### 三尊仏の痕跡で 国指定の北新造院

出雲国風土記には、山代郷に2カ所の新造院があったと記されている。

そのひとつ、来美廃寺は松江市矢田町に所在し、茶臼山北麓にある丘陵斜面に立地し「北新造院」と呼ばれている。日置臣目烈によつて建立され、金堂の東西に塔を置き、金堂の南西側に講堂を配した特殊な伽藍配置を呈する。

う部材がつくが来美廃寺では水煙の代わりに石製の天蓋をのせており、国内で現存するのは室生寺の五重塔だけという特異な部材だという。

室生寺では、天蓋の下に金属製の宝瓶が置かれており、来美廃寺でも同様の宝瓶があったものと見られている。

後に山代郷となつた弟山が建てた南新造院



1995年から6年にわたり発掘調査を進めた結果、①金堂の建設時期は7世紀末で、出雲では最も古い寺院である②金堂を中心に三尊仏が置かれた痕跡がある③8世紀後半には、瓦ぶきの伽藍が整備されたことが確認された。とくに、②は全国的にも極めて珍しいことから、国の史跡に指定された。

### 石製の天蓋を乗せた 珍しい相輪の塔

来美廃寺は、遺跡と文献(風土記)を照合できる全国でも貴重な事例として注目されている。

金堂の両側に位置する塔跡から石製の相輪の破片が出土したが、相輪は通常金属製が多く、石製は珍しいという。相輪には水煙とい

風土記記載の「山代郷の新造院」のうちひとつは四王寺(しわじ)で、松江市山代町の茶臼山南麓にあり「南新造院」と呼ばれている(写真右は、民家の間に基壇跡の表示板だけが立てられている)。

出雲臣弟山の造管とされ、伽藍配置はよくわかっていないが基壇が発見されている。

この寺院は、風土記によれば、飯石郡の少領(郡司)だった出雲臣弟山が建立したもので、当時、常住の僧が一人いると記されている。この弟山は、その後、出雲国造となっている。

日本共産党松江市委員会機関紙

# 新しい松江

発行 日本共産党東部地区委員会・松江市袖師3-6 電話24-2456

## 日本共産党 街頭演説

### 吉良よし子 参院議員 が訴え

# 日本共産党の躍進(4・16政治選)で 松江から安倍政治ノーの声を

間近に迫った松江・出雲の政治戦で、日本共産党の躍進を訴えるために、吉良よし子参院議員が来県。2日夕、松江市のショッピングセンター・イオン前で街頭演説に立ちました。



日本共産党の躍進を訴える吉良よし子参院議員(松江市)

吉良参院議員は、森友学園問題について「とても教育とは言えない異常な教育と児童虐待がおこなわれていた」とした上で、「これを安倍首相夫妻が『素晴らしい教育』と持ち上げ、安倍夫人は学園の要請を受けて、財務省に働きかけまでしていた」と批判。そして、「総理夫人と親しい学園に、国有地が不当に安く払い下げられた経緯について徹底究明を求めていく」と訴えました。また、安倍政権による「給



吉良よし子参院議員の街頭演説にかけつけた聴衆から、「そうだ」「がんばれ…」の大きな声援が飛びました。(松江・イオン前)

付型奨学金」にも言及し、「今必要なことは、リニア新幹線に莫大なお金をつぎこむのではなく、軍事費を削って教育・福祉にまわすこと」と強調し、「安倍政権に国の未来を託すわけにはいかない」と力説すると、何度も「そうだ」の声が上がりました。松江市政問題について、吉良参院議員は全国で唯一、県庁所在地に立地している島根原発の問題をいっかんして追及してきたのが共産党だと紹介し「原発は廃炉に、島根原発の再稼働反対の願いを共産党に」と訴え、日本共産党の3議席の勝利こそが、市政を大きく変え、安倍政権の悪政にノーを示すチャンスと訴えました。

## 間近に迫った2つの町議選 隠岐の島町―村上三三郎元町議 奥出雲町―川西明德町議が出馬



奥出雲町議選予定候補の川西明德氏。



隠岐の島町議選予定候補の村上三三郎氏。

隠岐の島町議選(定数16)は11日に告示(16日投票)され、日本共産党の村上三三郎元町議(83)が立候補を予定。一名オーバの少数激戦になる見こみです。村上氏は「一人ひとりが大切にされるまちづくり」をモットーに、▽国保、介護の負担軽減▽子どもの医療費無料化▽教育・子育て支援▽離島の農林漁業の振興―などの政

策を前面に訴えています。奥出雲町議選(定数14)は18日に告示(23日投票)され、日本共産党の川西明德町議が再選をめざします。少数激戦が予想されています。川西氏は、つねに町民目線で弱い立場の人に寄り添い、町民の願いで町政を動かしてきた実績を訴えるとともに、▽国保、介護、子育てなどくらし・福祉第一に▽仁多米の産地・奥出雲の農業の振興を―などを提案しています。県選対では「同時に、松江・出雲の市議選があり、あらゆるつながりを生かして全県支援を」とよびかけています。

## 出雲市議選(4/2告示~4/9投票) 日本共産党3議席を必ず



3候補は、国保や介護保険などの相つぐ負担増を強行した自民・公明を批判し、▽国保の引下げ▽中学卒業までの医療費無料▽介護の負担軽減▽住宅リフォーム助成の拡充―などの公約を前面に掲げています。

4月9日投票の出雲市議選は最終盤を迎え、日本共産党の井原ゆう、ごとう由美、吉井やすみの各候補は議席確保へ全力をあげています。(写真は、3月24日の総決起集会で氣勢をあげる3候補ら)

# 市民の願いで政治を動かしてきた… 日本共産党松江市議団3つの値打ち



この4年間、日本共産党の3名の市議団は、市民の願いや切実な声にこたえて毎議会質問(左のグラフ参照)に立ち、市政を鋭く追及するとともに願いの実現に全力をつくしてきました。日本共産党市議団の値打ちを3つの角度で見ると…。

## 1 いのちとくらしを守る力

「高い国保なんとかして」。市民の切実な声です。国保値上げにキツパリ反対するとともに、18歳未満の国保証取り上げをやめさせました。

また、夜間の認可外保育所への保育料補助制度を実現させ、子育ての総合相談窓口の設置や市営住宅の修繕費の公費負担を

実施させました。

このほか、地域の道路改修、側溝の整備、通学路の水たまり解消など身近な要求実現にもとりくみました。



## 2 島根原発再稼働許さず

松江市は、全国でただ一つ県庁所在地に原発をかかえる都市です。福島原発の事故以来、市民の原発への不安は増大しています。

党市議団は、毎議会のように原発問題を取りあげ追及するとともに、活断層や地下構造の徹底調査を求め、中国電力、国・県へも要請してきました。

## 3 ムダづかいをチエツク

住民からも批判が出ていた「松江北道路計画」(250億円)にはいっかんして「ムダな大型開発」と反対してきました。

また、市長が推進してきた「路面電車」計画にも、「松江の町にはふさわしくない」と反対し、ついに市長も「多額の経費がかかる」として導入を断念しました。

### ●会派一人当りの平均質問回数

(2013年6月～2017年2月。議長・副議長含む)

日本共産党	16.0回
松政クラブ (自民・保守)	5.5回
真政クラブ (保守)	8.0回
公明クラブ	7.8回
市民クラブ (民進系)	7.3回
友愛クラブ	14.0回



玉湯川の両岸にズラリと並んだソメイヨシノが春霞の青空に映え、春風に舞い散る花びらが川面に無数に浮かんでいる(写真)。堤の土手には、ゴザやシートを広げた家族連れやグループが、持参してきたオードブルや弁当に舌鼓を打つ。夜になるとポンボリに灯がともり、ライトアップされた桜が妖艶な色を川面に映し出し、若いカップルをほのかに包みこむ。

## まごつえ? っり 探訪

### ■ 玉湯町一堤の桜

— 玉湯川両岸に咲く桜が春風に舞い 川面を覆う —

文と写真 吉川 晴雄 (19)

両岸埋める400本の桜  
花見客でにぎわう堤

宍道湖河口から玉造温泉街までの約2kmの玉湯川両岸に、ソメイヨシノを中心に400本の桜が植えられている。

訪れたのは4月初めの晴れた昼下がり。まさにこれから満開を迎える桜があたり一面をピンク色に染めていた。「美しい」を通り越して、「圧巻」ともいえるべき光景に息を飲んだ。

温泉街に近いこともありこの時期、花見目当ての観光客も多いという。地元では「花吹雪温泉まつり」と銘打って、屋台も出る。夜には、ライトアップされた桜堤を大勢の宿泊客がそぞろ歩きを楽しむ。この桜並木は「全国お花見900景」に指定されている。

戦時中、製炭用材に供出戦後、若木を植樹して戦前には、およそ100m間隔に整然と桜の大木が並び、「大木の桜並木」として全国的にも有名だったという。

しかし、戦時中に製炭用材として大木の多くが間伐され供出された。戦争は桜の木まで無残な運命を強いたのである。戦後、古木だけが残され



た土手に、つぎつぎと若木を植樹し、再び見事な桜並木が再生された。玉湯川をまたぐJRの列車の車窓からの花見もまたおつなものである。古代は浜辺に市が立ち入り乱れ宴を楽しむ

出雲国風土記には、玉湯川は「玉作川」として出てくる。そして「忌部神戸」の条に「この川(玉湯川)のほとりに温泉が湧き、男も女も老人も子供も道路を行き交い、海中(宍道湖)を浜辺に沿って行き、毎日集まり市がたつたようなにぎわいで、入り乱れて宴をして楽しむ」とある。当時の玉湯川が流れ込む宍道湖は海水で、入り江は今の温泉街の近くまで入り込んでいたのだらう。その浜辺(写真右は、現在の玉湯川河口付近)で、あるものは温泉につかり、あるものは桜を愛でながら、車座になって宴を楽しんでいた光景が目につかぶようである。

日本共産党松江市委員会機関紙

# 新しい松江

発行 日本共産党東部地区委員会・松江市袖師3-6 電話24-2456

## 出雲市議選の教訓を受け止めて

# 松江政治戦 なんとしても勝利を

## 最後まで奮闘が勝敗決める

4月9日投票の出雲市議選は、即日投票開票され、日本共産党の後藤由美さんは当選しましたが、井原 優、吉井安見氏はともに議席確保に至りませんでした。選挙結果が示すように、「だれが落ちてでも不思議でない大混戦」の中、最後までやるべきことをやりつくしたかどうかで当落を決めました。

16日の松江の政治戦も、出雲と同様の構図となっており、選対では11日、「猛烈な勢いで、すべての党員・後援会員の立ち上がりをつくることなしには、他候補の必死さを上回ることはできません」

と訴え、①宣伝とスタンディング②対話を広げに広げる③担い手を広げるの「3つの作戦」を提起しました。そして、「どの陣営も必死の

### 隠岐の島町議選（16日投票）

#### 村上三三三郎元町議が奮闘



空白克服めざす 村上三三三郎氏

隠岐の島町議選（定数16）は11日に告示（16日投票）され、日本共産党の村上三三三郎元町議（83）が立候補。一名オーバの少数激戦に

大接戦で「3つの作戦」を掛け値なくやりぬくことがいかに大切か—このことこそ出雲の結果の教訓です」と訴えています。

### 奥出雲町議選（18日告示）

#### 川西（現）・田食（新）両氏が立候補へ



再選をめざす 川西明德氏



初議席に挑戦する 田食道弘氏

奥出雲町議選（定数14）は18日に告示（23日投票）され、日本共産党の川西明德

の農林漁業の振興—などの政策を前面に訴えています。

町議が再選をめざし、新人の田食道弘氏が長年、農協職員として町の農業振興に尽力してきた実績を前面に初議席に挑みます。少数激戦が予想されています。

川西、田食の両氏は、つねに町民目線で弱い立場の人に寄り添い、町民の願いで町政を動かしてきた日本共産党の実績を訴えるとともに、▽国保、介護、子育てなどくらし・福祉第一に▽仁多米の産地・奥出雲の農業の振興を—などを提案しています。

### 7点描

リアス式海岸の道路沿いに桜並木が続く、日本海のさわやかな潮風を受けて満開の桜の花びらが舞い散る。（島根町「チェリーロード」）



### 消費税各界連が宣伝行動

#### 岩田 衆院1区 予定候補、尾村県議ら訴え



消費税廃止島根県各界連絡会はこのほど、松江駅前で署名宣伝行動を行い、消費税の増税は大企業・富裕層と軍備増強にまわされ、社会保障費は削減される一方だとして、税金の使い方・集め方をたえず訴えました。（写真）

島根商工団体連合会の大家英司会長は「国民の切実な声や暮らしを無視する安倍政権を変えることが根本的な解決

につながります」と署名を呼びかけました。

日本共産党からは衆院島根1区の岩田たけし候補が「アベノミクスは国民の暮らしを破壊し、将来に不安を残しただけだ」、尾村利成県議は「私たちが払った税金は軍事予算ではなく、国民の暮らしのために使われなければならない。消費税10%など論外だ」と批判しました。署名した会社員の男性（33）は「一律の引き上げではなく、ぜいたく品に限定するなど工夫してほしい」と語りました。

4/16  
選択の日

# 自民党中心の冷たい市政から・・・ 女性市長で チェンジ

4月16日は、松江市政のゆくえを決める大事な日です。自民推薦の現職市政を続けるのか、新人の女性市長誕生で市政を転換するのかが問われています。

## 「原発なくせ」と言えない市政をチェンジ 島根原発再稼働ノー「原発ゼロ」の松江を

自民推薦の現市長は、福島原発事故後も、中国電力から寄付を受け取り「当の間は原発の必要性はある」と発言しています。

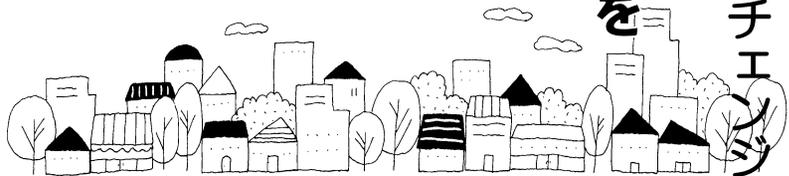
一方、「私たちがつくるまつえの会」の女性代表は、島根原発再稼働に反対する金曜行動をすすめてきた人。女性代表と「原発ゼロの松江」をつくりましょう。

## 市民に冷たい市政をチェンジ ひとりひとりを 大切にすする松江を

国保基金(約9億円)があるのに、値上げして県内一高い国保料に。「子育て環境日本一」と言いながら、子どもの医療費助成は他の市町村より遅れています。市予算・ため込み金を、国保引下げや子どもの医療費無料に回しましょう。

## アベ政治直結の市政をチェンジ 憲法をいかし、 平和な松江を

美保基地へのオスプレイ給油の空中給油機受け入れをいち早く表明した現市長。「だれの子どもも殺させない」「安倍政治を許さない」女性代表は、市民と野党の共同を大事に、「戦争法反対」でがんばってきた人。「空中給油機配備は撤回を」女性代表で平和な松江を築きましょう。



## おたふえり 探訪

### 市街(橋北)ー2人の銅像 ー二度総辞職した若槻礼二郎 近代スポーツの父・岸清一ー

文と写真 吉川 晴雄 (20)



県庁の前庭に二つの銅像がある。一つは、県庁前の通りに面したお堀端に立つ、ひととき目立つ日本スポーツ界の功労者、岸清一の銅像である。そして、もう一つは、前庭の南側中央に据えられた若槻礼二郎の胸像(写真左)である。若槻は、昭和初期に首相を二度務めた。

### 金融恐慌と戦争に 翻弄された首相

第一次若槻内閣は、内相を務めていた加藤高明首相の死去に伴い1926年1月に組閣された。しかし、1年後の27年3月に昭和金融恐慌が勃発し、経済大混乱の中で総辞職に追い込まれる。

第二次若槻内閣は、31年4月に組閣されたが、折からの世界大恐慌の中で、9月に満州事変が発生。若槻は不拡大方針を唱えたが軍部を抑えることができず、12月にまたしても総辞職に追い込まれる。

二度に渡って短命内閣になった背景には、金融恐慌による深刻な不景気と、軍部による中国侵攻があり、このあと日本は日中戦争へと突入していく。

### 普選法と治安維持法 内務大臣として成立

若槻礼二郎は、内務大臣の時の「普通選挙法」の制定や、在野中のロンドン軍縮交渉(1930年)などで、「平和と民主主義を愛した政治家」との評価がある。一方で、内務大臣時の「治安維持法」制定など忘れてはならない悪法を導入した当事者の一人でもあった。

治安維持法は、その後、最高刑「死刑」を取り入れ

この希代の悪法の下で、小林多喜二の虐殺をはじめとする大弾圧の嵐が吹き荒れたことは決して忘れてはならない。

### 日本のクーベルタン スポーツ発展に尽力



岸清一は、東京帝国大学を卒業後、弁護士となり長い間東京弁護士会会長を務めた。その一方で、日本スポーツ界の発展にも尽力した。(写真右は、県庁前の銅像)

大学時代は漕艇選手として活躍し、卒業後は弁護士業のかたわら大日本体育協会(日本体育協会)の設立にも参画した。第二代同協会会長や日本漕艇協会会長なども歴任した。

また、1924年には国際オリンピック委員会(IOC)委員にも就任し、ロサンゼルスオリンピックにはIOC委員として参加している。岸は、日本の近代スポーツを世界の檜舞台に乗せた功労者と讃えられている。

日本共産党松江市委員会機関紙

# 新しい松江

発行 日本共産党東部地区委員会・松江市袖師3-6 電話24-2456



古刹・千手院の境内から見る松江城が一番美しいといわれ、城とともに城下が一望できる。とくに、桜のこの季節には、参道の坂道が散った桜でピンクに染まる。(石橋町「千手院」より)



16日投票された松江市議選(定数34)で、日本共産党は現有3議席をひきつづき確保しました。当選を果たした田中肇(新)、吉儀敬子(現)、橋祥朗(現)の三氏は、17日朝、松江市内で街頭宣伝に立ち、公約実現へ全力をつくすと決意表明しました。(写真)



市長選で善戦した山崎泰子さん

16日投票された松江市長選挙で、日本共産党が推薦

## 山崎泰子さんが大健闘

## 松江市長選挙の結果

また、▽子どもの医療費は中学卒業まで無料▽国保料1世帯1万円引下げ▽介護保険

田中肇 2404票19位  
吉儀敬子 2132票30位  
橋祥朗 1930票34位

の負担軽減▽水道料の値上げストップなどの政策を前面に訴え、支持を広げました。3人の得票と順位はつぎのとおり。

## 隠岐の島町議選の結果

## 村上三三郎氏が空白克服

隠岐の島町議選(定数16)は16日に投票され、日本共産党の村上三三郎氏(83)が14位で当選を果たし空白克服しました。



当選を果たした村上三三郎氏。

した山崎泰子氏は、29414票(得票率31.67%)を獲得し善戦しました。選挙期間中、山崎さんは「原発なくせ」と言えない市政をチェンジし、「原発ゼロ」の松江を「市民に冷たい市政をチェンジし、ひとりひとりを大切にす松江を」などを訴えました。とくに「原発に

頼らない安心・安全の松江を」の訴えは、大きな共感をひろげました。

村上氏は、「一人は町民の立場ではつきりものが言える議員がいないと町政は発展しない。高齢ではあるが黙っていられない気持ちで立候補を決意した」と訴え支持を広げました。

選挙期間中、村上氏は「一人ひとりが大切にされるまちづくり」をモットーに、▽国保、介護の負担軽減▽高齢者



## 県エネルギー問題特別委の設置を ＝党県議団、民主県民クラブが要求＝

日本共産党島根県議団(尾村利成団長)と民主県民クラブ(須山隆会長)はこのほど、糸原徳康県議会議長に対して、中国電力島根原発の再稼働、再生可能エネルギーな

## メイクピースの集い

■5月3日(水)13:30～

■県民会館 中ホール

講演 憲法学者・飯島滋明さん

資料代500円

主催・「憲法改悪反対!5・3実行委員会」

対策の充実▽子どもの医療費無料化▽教育・子育て支援▽離島の農林漁業の振興などの政策を前面に訴えました。

# 島根原発のアンケート

## 立候補者のわずか26%が回答

原発ゼロをめざす島根の会は7日、16日投開票された松江市議選の立候補予定者を対象にした「島根原発の稼働の是非を問うアンケート」結果について公表しました。

質問は「島根原発2号機の再稼働」「同3号機の新規稼働」「避難計画の実効性」などの5項目。

2号機の再稼働には2人が「賛成」、7人が「反対」、2人が「考慮中」と回答しました。避難計画の実効性については「ある」が1人、「ない」が7人、「考慮中」が3人でした。

同会は、立候補予定者41人にアンケートを郵送。

3月末までに現職9人、新人2人の計11人から回答がりましたが、残る30人からは回答がありませんでした。回収率は、26.8%にとどまり、立候補者の意識の低さを露呈しました。

# 奥出雲町議選 (23日投票)

## 川西(現)、田食(新)両氏が奮闘



初議席に挑戦する田食道弘氏



再選をめざす川西明德氏

奥出雲町議選(定数14)は23日に投票日を迎え、日本共産党の川西明德町議が再

選をめざし、新人の田食道弘氏が長年、農協職員として町の農業振興に尽力してきた実績を前面に初議席に挑みます。少数激戦の中、複数議席へ挑戦し、奮闘しています。

これまで町議会では、川西町議が毎議会質問に立ち、議会が終わると「奥出雲町民報」で議会報告してきました。

また、介護保険料や国保税の値上げについてもただひとりきつぱりと反対を表明してきました。さらに、「島根原発の再稼働に反対し、再生可能

エネルギーの飛躍的な普及を求め、陳情「TPP協定を批准しないことを求める陳情」には賛成の立場を表明してきました。

二人は「町民の立場でスジを通してきた日本共産党が複数議席になれば、三倍四倍の仕事ができる」と訴えて、町民の支持を広げています。

川西、田食の両氏は、つねに町民目線で弱い立場の人に寄り添い、町民の願いで町政を動かしてきた日本共産党の実績を訴えるとともに、▽国保、介護、子育てなどくらし・福祉第一に▽仁多米の産地・奥出雲の農業の振興を―などを提案しています。

# 第88回 メーデー

5月1日(月)9:20~

松江・プラバホール

主催・島根県中央メーデー実行委員会  
問い合わせ・しまね労連 31-3396



島根半島の日本海側は、断崖、入江、離れ島が点在する景勝地が続く。なかでも、大芦から加賀の海岸は奇岩と海食の美しい沈降海岸で、大山隠岐国立公園に指定されている。

このあたり一帯は、新第三紀の安山岩熔岩や火山砕屑岩で構成され、断層線に沿って浸食された海食洞がみられる。まさに、自然の造形美の極致である。

# 島根町一大芦・加賀海岸

## 奇岩・海食・断崖の美しい沈降海岸が続く

文と写真 吉川 晴雄 (21)

セントク岩連なる須々海岸の奇形  
島根町の西端にある大芦須々海岸の「洗濯岩」(写真上)は、あの有名な宮崎県青島の「鬼の洗濯岩」にも勝るとも劣らない素晴らしい景観をつくり出している。

この砂岩は深海で発生した濁り水や土石流の堆積で、その裏側には、ソールマークと呼ばれる団子状の層がみられる。悠久の歴史的ロマンを発見できる場所でもある。

加賀には番所が置かれ松江藩の積み出し港



この地形が地表に表れたのは約6000年前といわれているが、洗濯板のような地層が形成されたのは1400万年前とみられ、この地層には深い海に棲んでいた貝の化石が発見されている。つまり、1400万年もの長い時間をかけて地層が大きな沈降と隆起をくりかえし、深海でたまった地層が地表に持ち上げられ、それが様々な浸食作用を受けて、このような洗濯岩が形成されたと考えられている。

洗濯岩から東へ車で少し進むと、加賀の海岸へ着く。湾内には、馬島、黒島、桂島などの奇岩に富んだ小島がみられ、桂島には海水浴場や遊歩道も整備されている。

江戸時代には、松江藩の積み出し港として栄え、日本海の西周りの航路の風待ち港としてにぎわった。

泥岩と砂岩の織りなす深海のロマンが地表に  
海岸線を走る県道から洗濯岩まで急な坂を降りることが出来る。

その地表をよく見ると、砂岩と泥岩が幾層にも重なった地表を波が差別的に浸食したことによって凹凸の海岸になったもので、泥岩の方が先に浸食が進み、砂岩が残されたことがわかる。

港(写真右は現在)には番所が置かれ、江戸期中頃から明治期末頃までは、船宿・船問屋が軒を並べ、医者、酒屋、そば屋もあった。運搬物は砂鉄、銅、塗り椀、瓦、干鰯など海産物など。さらに異国船に備える、砲台もつくられていた。